

編集後記

本号は、科学研究費補助金（基盤研究（B））「北欧における職業教育・訓練の改革に関する総合的研究——新しい「徒弟訓練」を中心に——」（代表 横山悦生）の中間報告書（その3）として発行させていただいた。この共同研究もいよいよ最終年度を迎えた。これによって、この3年間で多くの調査を実施してきた。また、海外の研究者とのネットワークも広がり、それなりの成果を生み出した。ただ、日本には北欧の国々を研究対象とする研究者の数は少なく、スウェーデンを研究対象とする研究者は少数であれ、相対的に多く存在するが、その他の3ヶ国を研究対象とする研究者はきわめて少なく、まだまだやるべきことが多く残されている。

冒頭の論文の著者は、2016年7月2日・3日に名古屋大学教育学部において開催する国際会議での報告予定者であるデンマークの Susanne Gottlieb 氏（University College Metropolitan, National Centre of Vocational Pedagogy）である。氏に国際会議での報告に関する論考を事前に寄せていただいた。岩田論文、田中萬年論文、田中宜秀論文は、2015年12月に行った科研の研究会（比較職業教育・訓練研究会）における報告をまとめたものである。

本号にはロシアの研究者によって書かれた論文を5本掲載した。最初の論文（E.V.Alekseyeva, E.Yu, Kazakova-Apkarimova による論文）は、ウラル地域における商業教育の誕生を扱ったものであるが、第13号に掲載した同著者たちによるロシア語の論文を英語に翻訳してもらったものである。それは、直訳ではなく、内容をより詳細に叙述したものになった。Zapari.B.B の論文はロシア語で書かれており、その英訳は次号に掲載する予定である。L.V. Bayborodova らの論文については、ロシア語とともに英語の翻訳もあわせて掲載した。さらに1920年代から1930年代のバシコルトスタン共和国（首都ウファ）における職業技術教育の展開過程について論じた論文を掲載した。これについては、ロシア語による論文しか掲載できなかった。

最後に、2016年5月14日は故佐々木享教授の1周年にあたり、この日に「故佐々木享先生を偲ぶ会」を開催する。昨年6月に、この「偲び会」の実行委員会を結成し、追悼論文集の編集など、その準備を進めてきた。その一つとして佐々木享教授の著作目録を2003年以降の研究業績も含めて作成した。これは、この日にあわせて大空社から出版される『人間いたるところ青山あり——技術・職業教育学研究者 佐々木享先生追悼集——』に収録される予定である。実は、この追悼論文集の編集を中心的に担当された、森下一期先生（元名古屋大学教育学部技術教育学講座助教授、1985年4月～1990年3月まで在職）が2016年3月2日に急逝された（享年72歳）。私事で恐縮であるが、この1年間に二人の恩師を失うことになった。誠に残念な限りである。ご冥福をお祈りしたい。この5月14日の「偲ぶ会」は、佐々木享教授が歩んできた、技術・職業教育学研究者としての歩みを振り返りつつ、後進の研究者である我々が、この分野の研究をさらに発展させていく決意を固めていく場になればと考えている。

（横山悦生）

